



News Letter



竹内緑を支えるルワンダの会 No.24(2024年4月)

いかがお過ごしでしょうか。日本は、春たけなわ・・というところでしょうか。ルワンダは、4月に入り雨季に入ったようで雨の降る時間が多くなりました。

今回のニュースレターでは、二つのことをお知らせ致します。

* 3人の受益者の卒業.....

一つ目は、2023年末日をもって3人の受益者が、イタベホからの支援を終了しました。これを私たちは、「卒業」と呼んでいますが、3人の女性の内2人は10年余り支援をまいりました。一人は家庭内暴力による心の傷、もう一人は日本で言う「ヤングケアラー」で、両者共に極度の貧困家庭でした。後者の人は、10歳前で学業を断念し母の看病と共に家計を担い、筆舌に尽くし難い苦しみを経た女性です。

「苦節10年・・・」とはよく言ったもので、この間、夫の失踪や背信行為などいろいろなことがありましたが、卒業に至ったことは大きな喜びであり、支えてくださった皆様にお知らせできることをうれしく誇らしく思います。

この働きを始めた当初、卒業を判断するに当たり3つの要件がありました。それは、トラウマの症状が軽減していること、経済的自立が可能であること、支援を開始した当初より状況が改善していることでした。先の2人の女性は、これら全部を満たしています。加えて、明らかに表情が変わりました。他の受益者にも同様に言えることであり、支援を開始した当初、陰鬱な表情がやがて穏やかに、虚ろな表情していた人がしっかりした表情に変わってゆく様を目にしていると、誰もが変わり得るのだということを教えられます。そして、今年の後半には新しい受益者を受け入れる予定です。



卒業生の一人 (2023年12月)

* カウンセラーの解雇.....

もう一つお知らせしたいことは、2022年カウンセラーを解雇したことです。虚偽や不正、受益者とスタッフたちへのパワハラなどがあったため、2022年11月カウンセラーを解雇しました。その後、彼女はその意趣返しとして労働基準監督署にイタベホを訴えたのでした。2019年にイタベホを立ち上げた際、労働条件に関してイタベホとカウンセラーの間で合意したことを翻し、悪質な手段を取ったのでした。その賠償として、4000ドル余りを費やしましたが(2023年の会計報告をご覧ください)、他にも彼女は嫌がらせを複数回行いました。

カウンセラー不在で1年以上を過ぎましたが、嘗て委縮していた受益者たちの表情が明るくなり、自らの意見をはっきり述べるようになりました。多額を費やしたことは痛手であり悩ましいことでしたが、避けて通ることの出来ない案件でした。そして、再びこのようなことが起きないよう整備するために時間を費やした2023年でした。

ところで、昨年末から今年にかけて、日本からリリマを訪問する方が続きました。

今回は、その内のおひとりに執筆をお願いしました。ご覧ください。



2023年12月の来訪者

リリマ訪問記

望月優子

初めてリリマへ訪れたのは、2017年2月21日火曜日。ルワンダへ駐在してから1年数ヶ月が経った頃。私は、事前学習をしてから当時、想像に想像を重ねても自分ごととしては到底捉えられない過去を生きてきた人たちに会いに、重い足取りで出かけたことを思い出す。

今回、2回目という事でセンターのスタッフや訪問予定の人と再会することも楽しみで行きは景色を堪能しながら、自分の事業として関わるルワンダの人々との付き合い方について緑さんと想いを語り合いながら向かった。今思えば、当初は恐らくお客様気分で行っていたのだろう。今は、日本に住んでいるにも関わらずほぼ毎日やり取りがあるルワンダが身近で、自分に心を打ち明ける数名の苦しい人生を乗り越えようとする人々と共に歩んでいるということが、きっとその重い気分で向かった当初の私を一步成長させているのかもしれない。

ルワンダの苦しい過去を自分も苦しみに耐えきれなくなる時期があったが、それを経て、それも過去の事実として受け入れられる段階にきたのかもしれない。※現在、INSHUTI(ルワンダ語で「友達」という意味)というファッションブランドを立ち上げ、ルワンダの友人と共に生きる挑戦としてフェアトレードビジネスを展開している。

前は、到着するとミルクを準備してくれていた。今回も到着するとセンターの職員が皆歓迎のハグをしてくれた。赤ちゃんと共に出勤しているデボタが配合を調整してくれたというお粥、もろこしやとうもろこしの粉で作ってくれた、タンパク質がたっぷり取れて腹持ちする飲むお粥を振る舞ってもらった。ここでも祈りの時間を持ってから頂く。

センターで生活する、癒しが必要な受益者たちにはもちろん、センターの職員やその家族にも愛情を持って包容力のある接し方をしていたのが、ジン・ピエールだった。子どもたちと遊びながら大人とのコミュニケーション、生活のあれこれを聞いていた。みんなにとっての頼もしい存在、という感じだった。

その後、地域のクリニックを入り口から見学させていただいた。センターからは歩くにはちょっと距離があり谷を降りてまた緩やかに登って行ったところにあった。大きなお腹の妊婦さんたちが多数出入りしていた。健康な通常の妊娠なら継続し出産できるのだが、何か異常が起ると母子共に助からない生命があるのが途上国の医療に於ける貧困。その後前回は訪問させていただいた方2人を訪ねた。

1人目の女性が、当時は7人を育てるシングルマザーだった。今回は、8人を育てていた。大きく違った点は、家の裏に畑が出来ており、そこを耕したりバナナを収穫したりして自給自足ができていたこと。生活は苦しく、今もアルコール中毒の症状が出てしまうことがあるとのこと。一番上の子どもたちが週末に泊まりに帰ってきたことが話題になり、もっと一緒に時間を過ごしたかったと寂しげに答えたところは、母としての顔を垣間見せた。彼女の人生の不甲斐ない苦しみに、向き合うことが辛くて陰を感じる部分は、最初に会った頃の印象と変わらない。数えると最

初の訪問からもう7年が経っているらしいが、もっと若くて落ち着かない感じはしなくなっていた。緑さんのお話から察するところは、アタナジーの家族に問題は耐えず起こっており家族全員を癒やして包む事は不可能なのは、と打ちひしがれる。しかし、希望を持ち、祈りのうちに生きていく意志があるならば寄り添ってくれる人がいる事は生きる糧になり、またそれは同時に彼女の負った傷がどれだけ深いのかという事を思い知る。容易に前を向いてなんて生きられない、それほど傷付いているから彼女の印象は、笑顔の奥に憂いを感じるのだろう。

緑さんは何度も決して前向きではない話をしなければならぬシーンを重ねてきただろうに、いつもと変わらず目を見て笑顔でハグをしてから、うんうんと聞いていらっした。

2人目の家庭は、何度も裏切られた夫と、今は育て頼りになる息子たちに助けられながら裏の建設中の建物で家賃収入を計画している夫婦だった。奥さんが体調不良だったため家の中では長居をせず建設中の建物を見せてもらった。彼女は、DVと浮気とお金でも大変な想いをさせられた夫を許しているのか諦めているのか、ただただ真の強さとそういった害になるものに捉われずに自分の道を進んでいける力強さを見せていただいた。

2人の7年後を訪問してみて、感じたことが二つ。

一つは、希望を信じて前進していけるかどうか、がそれぞれの未来を必ず変えているということ。自分の信念を曲げずに逃げずに現実と向き合っているかどうか、それが自分の道を照らす事に繋がっていくということ。センターの存在が無ければ、それも叶っていなかったかもしれないという奇跡。

もう一つは、7年を経て当たり前のことながら皆が歳を重ねていた。緑さんとその活動の地道な寄り添いが、必要不可欠な人が沢山いて、またそれによって何度も打ちひしがれながらそれでもしっかり自立している人もいる、という結果が、正に愛を持って接してきたことの現れだと感じた。

緑さんのお話の中に、センターで過ごす人たちが負った苦しい経験は、出会ってすぐの人に言えるような体験ではない。というのが印象的だった。寝食を共に過ごして心打ち明けられる心理的な安らぎを得られて初めて話せるし、過去の問題や心情を吐露することができる。そういった環境を作ってから心身の痛みを癒していく長い旅が始まるのだ。

本当に地道で丁寧な関わりを持たれている緑さんの健康が守られることを願う。またセンターを運営する資金が潤沢に与えられ、この活動が出来る限り継続していくことを共に祈っていきたい。



2024年2月の来訪者、右手前が「望月優子さん」

2023年支援金の報告（1月1日～12月31日）

竹内緑を支えるルワンダの会への支援金有難うございます。竹内緑氏のルワンダでの活動の様子につきましては、今年3回お送りしましたニュースレター及びホームページでお伝えしていますが、ルワンダでの活動が9年を経過しました。竹内緑氏が代表者となる**NGO法人「ITABWEHO」**は、これまでの活動をさらに充実して5年目を継続中です。リマでの支援センター活動に加えて、近い将来、リマ以外の地域で同様の働きをしたいと願っておられますが、現時点では未だ着手されていません。

心に傷を負った人たちの回復には長い時間のケアが必要です。成果は現れてはおりますが、まだまだ、支援の継続が必要です。ルワンダはアフリカで治安も良く、経済的に発展している国として知られていますが、貧困家庭が多く、飢えに苦しんでいます。国民の福祉まで手が回っていません。竹内緑さんのジェノサイドによる心の痛みの回復、貧困家庭の救済は、国の手の届いていないところへの支援です。皆さまのご支援で、**ITABWEHO**の活動が来ています。今後ともこの活動を見守り、ご支援をお願いいたします。

支援金を頂いた方々（敬称略、順不同）

藤原忠明・洋子、東邦子、市村正、河合朝子、藤永芳美、西村保興子、門倉治美、久留米聖書教会、高塚春代、須山弘子、端戸朋子、江原雅子、舩水淳子、田谷啓子、中本孝志、前橋京子、吉田由紀子、下田ひとみ、山室勝子、大門節子、道祖尾博子、猪俣千穂子、中山和子、四井幸子、西本玲子、棚橋ヒデ子、押方恵・愛子、露芝経子、藍原茂子、吉田房枝、松井茂美、酒巻佐代子、城谷加代子、端戸珠代、幡江美智子、福嶋知恵子、慎光晟、増田千尋、西垣和良、森田哲也・いずみ、松野昭江、谷口香与子、辻正彦・有紀、三浦由佳、武宮眞理子、廳和子、林多美子、田中美代子、中原伸一郎、木村陽子、荒川義治、中島桂子、斎川啓子、奥田育子、最上和彦・さおり、山下幸子、溝口葉子、岡田悠二、竹中友張、六浦寿子、牧江享子、井山愛治、富田由美子、安東隆子、坂田陽子、大西雅憲、大下美保、宮崎恵子、三浦修、太田径子、木下伸子、中島順子、若松房子、小崎正光、砂川晋治、三谷信子、太田啓子、深井光、山内啓子、福岡女学院看護大学宗教部、小山恒平、鳥取福音ルーテル教会ルワンダ支援会、用瀬教会、忍ヶ丘キリスト教会ルワンダ光牧場、稲城聖書教会、八頭教会、麦の会・成田節子、浮田一範、（株）スマイル代表取締役三木征一郎、鳥取県看護協会、根本チサト、井上美恵子、早稲田大学、高岡バプテスト教会、上野芝キリスト教会有志、桜ヶ丘キリスト教会、江原南・晶教、棟居徳子、山本康夫

<2023年度 項目別活動費>

項目	金額（\$）	内容
子供たちのケア・聖書の学び	890	子供たちのケア・牧師の謝礼
治療食	2,883	栄養失調の治療食
食料支援	711	受益者への食糧支援
医療費（治療費、交通費等）	739	受益者・スタッフの医療支援
設備・衛生・保安（センター）	2,554	シェルターの設備・備品・保安
学用品・衣類等	1,381	学費・学用品・衣類等
光熱費	390	シェルターの光熱費
祝会	99	誕生日会・クリスマス祝会
給与・通信費	4,332	スタッフの給与・通信費
交通費	1,882	スタッフ・訪問者の交通費
その他	848	スタッフの年金他
カウンセラー解雇・賠償等	4,187	カウンセラー解雇後の賠償金
2023年 活動費総額	20,896	

2022年度の総活動費は\$18,216

2023年度賠償等を引いた額 \$ 16,709 活動費削減に努めました。

会計報告

✿ 収入 (2023年1月～12月31日)



2022年繰越額	2,209,907円		
内訳	ゆうちょ銀行	976,249円	
	みずほ銀行	489,000円	
	振込口座	744,658円	
年間献金額	2,653,779円		
内訳	2023年郵便振込額	2,023,760円	
	2023年銀行振込額	630,000円	
	受け取り利息	19円	
合計	4,863,686円		

<その他の献金 (竹内緑個人用)
 ・GPCCC (中国教会) USA の教会 5,620ドル
 (竹内氏の家賃・他の生活費として使用)

✿ 支出 (2023年1月～12月31日)



支出合計	2,136,865円		
内訳	竹内緑氏 2023 活動費	2,000,000円	
	ニュースレター印刷、発送	97,004円	
	事務費 (郵便振込手数)	28,311円	
	振込手数料	11,550円	
2024年繰越金	2,726,821円		
内訳	ゆうちょ銀行	608,705円	
	みずほ銀行口座 (※)	478,009円	
	振込口座	1,640,107円	
合計	4,863,686円		

※ジン・ピエール奨学金 40万円を含む

祈りの課題

1. 受益者である子供たちが、「神を愛し人を愛する人」として成長しますように。
2. 1年分の活動費（200万円以上）が与えられますように。
3. 受益者（大人も子供も）、病気や事故、種々の誘惑（アルコール、性的、薬物等）から守られますように。
4. 私をはじめスタッフたちが、この働きにふさわしい者として整えられますように。
5. イタベホが確かなNPOとして整備され成長してゆきますように。

【ご支援・ご協力のお願い】

* 会費及び寄付金のお願い.....

「竹内緑を支えるルワンダの会」の活動にご賛同くださる方は、是非ご支援とご協力を頂けますようお願い致します。

年会費（会計年度1月1日～12月31日）

会員 一口5,000円 / 賛助会員 一口2,000円

※会費以外の寄付も随時お受けいたします。

* 会費・ご寄付の送金方法.....

○郵便振込（別紙払込取扱票又は郵便局備付けの払込取扱票をご利用ください。）

郵便振替口座：01330-5-102074

加入者：竹内緑を支えるルワンダの会

○郵貯銀行振込

郵貯銀行口座 記号 15250 番号 3593801

NGOの名称、ルワンダ語でITABWEHO（イタベホ）、の意味は

「愛すること、世話すること、癒すこと」などであり、私たちが行っていることです。

1. 心の傷を癒すために心理学（精神）的だけでなく、全人的なアプローチを行う。つまり、心理的、肉体的、社会的、霊的な支援を行う。
2. 心に傷を負った女性だけでなく、彼女の家族（子どもたち）をも含めて支援をう。
3. 必要な人には、シェルターを提供し、我々の保護下で生活を共にしてケアを行う。
4. 支援する受益者は、ひとり一人を大切にするため30人余りの少人数とする。



以上は、我々独自のものであり、理念とも言える基本的考え方です。

ご連絡・お問い合わせ先：「竹内緑を支えるルワンダの会」事務局

〒680-0463 鳥取県八頭郡八頭町宮谷 224-1 日本キリスト教団八頭教会内

電話 0858-72-0075 E-mail: mtakeuchi.rwanda@gmail.com（竹内緑個人アドレス）